

愛知県(県域)

1 産地の概要

＜対象品目＞ ナス

＜産地の現状・課題＞

愛知県の施設ナス産地では、単為結果性とげなし品種が導入され、省力化が図られてきた。病害虫防除についても、化学農薬の使用回数の削減による省力化や環境に配慮したナス防除体系の推進が必要である。また、近年の夏季高温による定植後の活着不良、落花や着果不良等による初期収量の低下が起こっており、高温の影響を回避・軽減する技術の導入が必要である。

そこで、物理的防除資材と微生物農薬、薬剤感受性検定結果を活用して、化学農薬散布に頼らないコナジラミの防除技術と農薬散布回数の削減による省力化を図る。また、遮光遮熱資材を用いたハウス内環境の改善を行い、生産性への影響を検証する。

2 検討体制

＜愛知県組織と関係機関の役割＞

- ・農業水産局農政部農業経営課(事務局)
- ・農業革新支援センター(事業のコーディネート、実証計画、検討会の開催、技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略のとりまとめ)
- ・普及指導センター(農業者及びJAとの調整、実証ほの調査、技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略の検討、検討会への参加)
- ・農業総合試験場(研究成果の提供、検討会への参加、助言)
- ・農業者(実証ほの栽培管理、技術の実証、データ収集)
- ・JA(農業者との調整、技術指導、調査補助)
- ・JAあいち経済連(薬剤感受性検定の実施、資材情勢等の提供、検討会への参加)

3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量の低減	栽培期間全般 病害虫管理	＜取り入れる技術＞ ・微生物農薬と黒色防虫ネットを活用したコナジラミ類の防除 ・薬剤感受性検定を活用した薬剤選定によるコナジラミ類の防除
		＜見込まれる効果＞ 化学農薬の削減、農薬散布回数の削減による省力化

＜気候変動適応技術、省力化に資する技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
気候変動適応技術	定植後から生育中期	＜取り入れる技術＞ 遮光遮熱資材を本ほハウスに被覆することにより、夏季のハウス内環境を改善し、定植後の活着促進や落花・結実不良を低減させ初期収量の確保をはかる。
		＜見込まれる効果＞ 初期生育の改善による収量確保、遮熱剤の塗布・剥離と比較した労働時間の低減

4 活動内容(予定)

- ・検討会の開催(実証ほの計画・成績等についての検討)
- ・微生物農薬と黒色ネットの活用、及び遮光遮熱資材の被覆について実証ほを設置し、栽培マニュアルと産地戦略を県域で作成。